

学校経営ビジョン

“「つながり」を学ぶ そして、学ぶことを「喜び」に”の実現を目指す学校

〈ビジョン設定の理由〉

○ 社会の現状・要請から

- 変化の激しい現代社会では、個別化・細分化が進み、複雑で多様なニーズや価値観が生まれてきている。また、人口減少によるマンパワー不足も懸念され、AIの導入、外国人労働者の流入も加速化されると言われる。そうした中、公助から自助、業務の効率化、縦割りからネットワーク化、ダイバーシティ、SDGsなど、改善の取組も多岐にわたっているのが現状である。
- 情報化・グローバル化の進展は、コロナウイルスの世界的な蔓延を見ても明らかである。今後も、物流のみならず人や情報の交流(ネット上を含め)は、国内外を問わずに、ますます活性化されると言われている。
- これからは、知識や情報をもっていること自体の価値は下がり、よりよい未来や新たな価値の創造に向けて、自ら課題を発見し、知識や情報を活用しながら、異なる考えをもつ人たちとも協働して取り組んでいく力が求められる。

○ 子ども達や家庭・地域の実態から

- 稚葉の教育のよさは恵まれた教育環境にある。それは、「家庭や学校など、子ども達の居場所が地域に根付いていること」、「一人一人の子どもを適切に理解し、手厚く指導ができること」、「家族の顔まで分かるのでつながりを意識した指導ができること」、「心の癒やしとなるものが包み込んでくれていること」等が挙げられる。
- 恵まれた教育環境で育てられた子ども達は、純粋で優しく子どもらしい。一方で、純粋が故に感化されやすかったり、少人数の人間関係で育つが故に自他を見る目が固定化されたりする面もある。
- 中学校卒業後は親元を離れて暮らすことになるので、それまでに愛情をたっぷり注ぎ、自立に向けた躰をしっかりしていこうとする家庭教育力のある保護者、学校教育に理解を示して協力しようとする保護者が多い。

○ 経営ビジョンについて

- 人は一人で生きていくことは不可能で、それぞれの役割を果たしながら、支え合って生きている。個が尊重される世の中にあっても、個が優先されるものではない。「令和の日本型学校教育の構築」では、個別最適な学びと協働的な学びは一体的な充実が求められている。集団の中でこそ個は尊重されるものであり、集団から逸脱すれば個ではなくなる。学校の存在意義が問われている今日、いろいろな個性や考え方をもつ人間がいる中で、『一緒に楽しみたい、成し遂げたい、乗り越えたい』と心をつなげて集まり、取り組むことのよさ、大切さをしっかり学べる場でありたい。
- ものの見方、考え方を育むためには、単発的な学習ではなく、意図的・系統的な学習を展開していく必要がある。物事(人・事象)はすべて目的や意義等により、つながりがあることを学ばせたい。そのことで、物事の本質やそれぞれのもつ役割の大切さを見出すことができると考える。これは、多様化する社会、未来を切り拓く子ども達に身に付けさせたい資質・能力である。
- 自分と事象とのつながりを学ぶことは当事者意識を高め、主体性を引き出すことができる。また、つながりを生かすことで、深い学びや豊かな体験が可能となる。こうした学習を展開していくことが、「(ともに)生きるということは、学ぶということなんだ」、「学ぶことは喜びなんだ」と考える“人づくり”に、そして、自己肯定感の高揚や感謝・貢献する心の醸成にもつながると考える。
- 「教育は学校のみが担うもの」ではなく、「人づくりは地域全体で担うもの」という考えをコミュニティ・スクールを推進する中で広め、地域創生～持続可能な社会づくり～につなげていきたい。